

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

## 10月からの飲用牛乳値上げに対する 理解醸成活動報告(後編)

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と  
米国・カナダ酪農視察研修報告(前編)

若手後継者の本音 / 長見 光寿さん



酪農トピックス / いも掘りで市民と交流! (大阪) ほか  
平成25年度 全酪連会員担当者研修会  
日本酪農見て歩紀 (栃木県高根沢町 黒内智治牧場)



12

2013 December No.579



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の

本音

Vol.5

# 農協職員から酪農家へ転身！ 即断即行で堅実な酪農経営

北海道網走郡大空町 長見 光寿さん



光寿さんと奥様の康恵さん

## 概要

今回取材させていただいた(有)向井牧場は、オホーツク網走農業協同組合(岡本一男代表理事組合長)に所属し、経産牛85頭、育成牛70頭を飼養しています。労働力は経営主の向井弘さん、奥様の裕子さん、娘夫婦の長見光寿さんと康恵さんご夫妻の4人です。今回は後継者である光寿さんにお話を伺いました。

## 就農までの経緯を教えてください

私は牧場のある網走郡大空町に隣接する小清水町の出身です。大学卒業後、平成9年に地元の小清水町農業協同組合に就職し、8年間勤めました。在職中は青果課と資材課に配属され、畜産関係の部署とは全く関わりがありませんでした。平成13年に現在の妻と職場結婚。妻は3人姉妹の末っ子でした



向井牧場航空写真

ので、自分が妻の実家を継ぎ、酪農家になるとは夢にも思っていませんでした。

就農のきっかけは、何度か頼まれて手伝いに行っているうちに面白いと思うようになったことでしょうか。また、社長(義父の向井弘さん)は後継者がいなかったため、牧場を誰かに売ろうと考えていたようで、誰に譲っても作業のしやすいような体制、施設の整備を進めていて、環境の面でも恵まれていたということもあります。そんな思惑にひっかかり?(笑)、自分から就農

を申し出て、平成17年4月に就農。素人から酪農家への第一歩を踏み出すこととなりました。ちなみに、向井牧場は私まで3代にわたって婿が続いています。

**就農後の生活について**

就農当初、今までと全く違う生活スタイルに慣れるまで1年近くかかりました。私の実家は非農家でしたし、農協在職中も内勤だったので、朝が早いのは堪えました。なかでも1番つらいと思ったのは、マイナス20℃以下になる真冬の外作業ですね。今では寒さよりも、大雪が降って余計な仕事が増えることの方が嫌だと思うようになりました。

試行錯誤の新生活の中で、初めて参加したウイリアムマイナーのセミナーのレベルの高さに衝撃を受けました。それからは優秀な普及員の指導の下、必死で飼料設計の勉強をして、CPM-Dairyを使い自分で飼料設計ができるまでになりました。作業の中で



フリーストール



パーラーで搾乳中



子牛牛舎

は餌が一番面白いと思っています。今でも「自分は素人に近い!」と思っっていますので、出られるセミナーには参加して、できる限り情報収集に努めています。今では知り合いも増えて、情報網も広がりました。

平成19年には就農までの経歴をネタに、農協青年部の青年の主張大会で東北・北海道大会まで勝ち進んだ経験があります。新生活にはいつて大変な時期でしたが、新天地に移り住み、知り合いも友達も少ない中で、地域の仲間ができるきっかけとなり、貴重な経験になりました。

就農から9年目を迎え、いつのまにか農協職員時代より酪農家生活のほうが長くなったなあと、思う今日この頃です。

**飼養の取り組みについて**

今年には雌雄判別精液を使った成果も出て、産出頭数のうち、約7割がメスとして生まれたので、うまく回転さ

せられそうな今後が楽しみです。F1までメスが多いのは困りましたが。餌の面では、飼料価格高騰の中で、地元農協で出る澱粉粕サイレージを使いコスト削減に努めています。夏場は熱を持ちやすいので使いませんが、夏場以外で使えば大きなコスト削減になります。自給飼料は草地28ha、デントコーン15haで生産し、収穫は基本的にコントラを利用して、傾斜のひどい畑のみ自分で収穫しています。

平成18年からは全酪連のセミナーで知った強化哺育に取り組んでいます。見学に行った農家の牛は細身で背が高く、ずんぐりしたうちの牛とは全く違うことに、当時牛をよくわかってなかった私には驚きました。その後はすぐに強化哺育に取り組みしました。効果はすぐに現れ、期待通りに仔牛のスタイルは改善されました。初産分婯月齢は平均22カ月ですが、体格が大きくなったことで初産牛の難産は大幅に減りました。また、乾乳期の餌の改善にも取り組みました。当時は分婯後に牛の調子が悪く、低カル、後産停滞が多く悩んでいました。今は分かりますが、当時の北海道では乾乳期にカルシウムを入れない方法が主流となっていた中、カルシウムを入れる設計を教えてもらいました。またカリウム、マグネシウム、イオウの割合を見直すことにより、効果てきめん。分婯が楽しみになるほど調子がよくなりました。

**今後の目標について教えてください**

色々な人から教えてもらったことを実践し、よい結果が出たときには嬉しいですし、そこが酪農の面白いところだと思えます。やったことには結果が現れます。牛はうそをつきません。よかったことにも、悪かったことにも答えを出してくれます。

家族経営の出来る範囲内で収益を最大にすることを考え、投資もほどほどにして足腰の強い経営をしたいと考えています。目標は常に乳量14,000kg!!目指すのは自由ですから(笑)。

酪農家は基本的に年中無休です。子供たちともなかなか遊んであげる暇がありません。ですが、働く親の背中を見せられるのは、普通のサラリーマンではなかなかできないことだと思います。就農してから毎年欠かしたことが無いのは年に1度の家族旅行です。将来、子供たちに少しでも記憶に残ることをしてあげたいので、今後でもできる限り続けていきたいと思っています。

9年のキャリアを経てなお自らを素人と呼ぶ光寿さん。言葉の端々からは酪農に対する情熱と、向上心がうかがえました。今後も堅実な牧場経営と、今後の牧場発展と光寿さんのさらなるご活躍をお祈りしています。

# 理解醸成 活動報告 後編

9月28日(土)に東京都秋葉原駅前にて行った理解醸成活動を皮切りに、10月、11月と全国各地で順次活動を行いました。今月号では、その活動結果(後編)をご報告いたします。ご協力いただいた関係者に深く御礼申し上げます。



## 東京支所

10月27日(日)、新潟県新潟市中央区「新潟市産業振興センター」の『第15回協同組合まつり』において、北陸酪農業協同組合連合会及び新潟県酪農業協同組合連合会の職員計5名が、牛乳値上げに対する理解を求めるチラシ・保冷エコバック200セットを配布し、現在の日本の酪農を取り巻く厳しい状況、並びに飼料価格値上げ等による10月からの牛乳価格値上げへの理解について、消費者に説明しました。ブースで説明を聞いた参加者の方からは「酪農家のお仕事頑張ってください」「相次ぐ食品の値上げで家計は厳しいですが、これからも牛乳は飲み続けます」などの声が聞かれました。



◀ バッグは大好評

10月27日(日)、群馬県前橋市「畜産試験場」での『酪農畜産フェスティバル』において、群馬県酪農青年女性会議連絡協議会が、来場者へチラシ・保冷エコバック200セットを配布し、牛乳値上げに対する理解を求めました。

11月2日(土)と9日(土)、長野県信州大学学園祭にて長野県酪農青年女性会議がJA全農長野と協賛し理解醸成活動を行いました。信州産牛乳で作ったヨーグルトや地元の牛乳で作ったずずらん牛乳製造の飲むヨーグルトを添えてチラシ・保冷エコバック200セットを配布し、牛乳の値上げ理解と消費拡大をアピールしました。



興味津々で集まっていただきました

11月24日(日)、埼玉県寄居町で開催された『第40回寄居町産業文化祭』において、埼玉酪農業協同組合及び全酪連職員など計10名が理解醸成活動を行いました。ブースを設け、チラシ・保冷エコバック300セットと合わせて、牛乳1,300個のチャリティ販売も行いました。8,000人もの来場者があり、ブース前には行列ができるなど大盛況でした。



◀ 合わせて行った牛乳のチャリティ販売



大行列ができました ▶

10月27日(日)、茨城県小美玉市「茨城県中央家畜市場」で開催された『第30回茨城県ブラックアンドホワイトショー』において、茨城県酪農業協同組合連合会職員が「理解醸成活動」を実施し、来場者にチラシ・保冷エコバック300セットを配布し、牛乳値上げに対する理解を求めました。

今回が第30回の記念大会であり、県内酪農家の中学生以下の後継者による「ベビーショー」が併せて開催され、牛乳が大好きなかわいい出品者達が多数参加いたしました。

来場者からは、「酪農情勢が厳しいので、牛乳の値上げは仕方ない」、「後継者である子供達が、安心して酪農家になれるよう応援したい」等のご意見をいただきました。



◀ ベビーショー

## 名古屋支所

10月19日(土)～20日(日)、愛知県豊橋市で開催された『豊橋まつり』において、愛知県酪農農業協同組合青年女性部及び事務局がチラシ・保冷エコバック300セットを配布し、牛乳値上げに対する理解を求めました。他にも愛知県内4カ所で活動し、理解醸成に努めました。

11月23日(土)～24日(日)にかけて、岐阜県大垣市で開催された『JA西美濃農業祭』において岐阜県酪農青年女性会議がチラシ・保冷エコバック300セットを配布し、牛乳値上げの背景説明を行いました。岐阜県内では他にもスーパーマーケットでチラシを配布したり、地元ラジオ・ヒッツFMの公開生番組に出演して理解醸成活動をアピールするなど、積極的に活動を行いました。

## 大阪支所

10月26日(土)、広島県「広島城祉前広場」において、『ひろしまフードフェスティバル2013』が開催され、広酪メンバーズクラブ、全酪連職員3名がチラシ・保冷エコバック400セットを配布し、牛乳値上げの背景を説明しました。併せて、来場者の方へ牛乳アンケートを実施するなど、消費者の意見を伺う良い機会となりました。



▲ 牛乳アンケート

また、同日の26日(土)に徳島県「アスタムランド徳島」においても徳島県酪農青年女性会議役員・事務局が牛乳値上げに理解を求めべくチラシ・保冷エコバック200セットを配布しました。



◀ 消費者にバッグを渡し理解を求める

▶ 牛乳利用をお願いする



11月9日(土)、JR岡山駅に近接するコンベンションセンターで『おかやまミルクフェア2013』が開催されました。会場の一角に専用ブースを設け、西日本酪農青年女性会議役員及び全酪連職員計9名で、10月からの牛乳価格値上げ後も牛乳の継続利用を呼びかけチラシ・保冷エコバック1,000セットを来場者に手渡しました。牛乳価格が値上げとなっていることを意識していない消費者や「そう言えば上がっているわね」と頷かれる方と様々でしたが、いつも飲んでいる・子供に飲ませているなどの家庭での利用を感じられる感想が返ってきました。保冷エコバックは、利用しやすい大きさと好意的に受け取って頂きました。

## 福岡支所

牛乳早飲み競争 ▶



◀ 値上げへの理解をお願い

10月26日(土)、大分県別府市「別府公園」にて開催された『大分県農林水産祭』において、大分県酪農青年女性会議24名が理解醸成活動を行いました。ミルクもちの試食、バター作り体験、酪農クイズ、牛乳早飲み競争を実施しながらチラシ・保冷エコバック250セットを配布し、牛乳値上げへの理解を求めました。保冷エコバックは大変好評でした。

福岡支所

▶ 朝霧の里みやこたじょにて



同日の10月26日(土)、宮崎県都城市「朝霧の里 みやこたじょ」において『第57回宮崎県畜産共進会フェア』が開催され、宮崎県酪農青年女性連絡協議会7名が理解醸成活動を行いました。チラシ・保冷エコバック250セットを配布しながら牛乳の値上げを説明すると、「最近、牛乳の値段が上がったが健康のために飲みます」「牛乳だいすきなので、学校でも家でもいっぱい飲みます」とありがたい声を頂くことができました。

11月1日(金)には、佐賀市嘉瀬川河川敷で開催された『バルーンフェスタ佐賀』内のうまかもんステージ周辺において、佐賀県酪農婦人部連絡協議会役員、事務局、全酪連職員ら計7名で、牛乳値上げに対する理解を求めため、チラシ・保冷エコバック100セットを配布しました。



牛乳値上げを説明しながらの配布

11月17日(日)、福岡市中央区「天神中央公園」で『福岡県農林水産祭』が開催され、ふくおか県酪農青年女性会議11名が牛乳値上げに対する理解を求めべくチラシ・保冷エコバック400セットを配布しました。今回は主なターゲットを家族連れに絞り配布したところ、牛乳の値上げは「なんとなく知っている」という方が多く、値上げになっても「毎日牛乳飲みます」「頑張ってください」という声が多く聞かれ、逆にこちらが励まされました。



◀ 消費者へ熱心に説明

▶ エコバックは大好評



11月8日(金)～9日(土)にかけ、「沖縄県南部家畜市場」にて開催された第39回沖縄県畜産共進会に併行し、今年初めて『第1回まーさんフェスティバル』と題した畜産祭りが開催されました。沖縄県酪農青年女性部連絡協議会が出したブースでは、県内酪農家の紹介、県産牛乳のアピールのパネルを展示し、牛乳の試飲と共に、牛乳を原料にしたデザートを作り、無料で配布しました。また、搾乳牛を2頭持ち寄り、搾乳体験をした子供たちを中心に保冷エコバックを配布しました。搾乳体験は100名を超える参加となり、大盛況でした。

沖縄県では乳価交渉継続中であり、牛乳の値上げには至っていないため、県産牛乳・県内酪農のアピールに留まりましたが、来場者からの反応も良く、家族連れの好評を博す結果となりました。



◀ 県内酪農家紹介パネル



牛乳試飲

11月23日(土)、長崎県長崎市「水辺の森公園」にて『ながさき実り恵みの感謝祭』が開催され、長崎県酪農業協同組合連合会出展ブースにおいて、長崎県酪農青年女性会議委員5名がバター作り体験、搾乳体験に参加された方に対しチラシ・保冷エコバックを配布し、牛乳値上げに対する説明を行いました。参加者の方からは「大変でしょうが頑張ってください」「牛乳毎日飲んでますよ」と声をかけて頂きました。



◀ 牛乳値上げへの理解と消費拡大をアピール

# ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修

報告

前編



▲クオリティホルスタイン牧場前にて



平成25年11月6日(水)から13日(水)までの6泊8日の日程で、(社)全国酪農協会主催「ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修」に参加させていただきました。参加者は第42回全国酪農青年女性酪農発表大会の発表者8名、全国酪農青年女性会議役員1名を含む総勢21名。団結式を成田空港の一室で行った後、定刻から若干遅れて離陸した国際線で、一行は日本を旅立ちました。

1日目 11月6日(水)

シカゴでの乗継を含めると移動時間は16時間となり、トロントに夜遅く着くころには皆クタクタという顔でホテルに入りました。ホテルのロビーで弁当(日本食!)が配られ、それぞれの部屋で遅い夕食を摂りました。トロントには移動日も含め5日間滞在しましたが、その間の食事で、量といい味といい、最も落ち着いて食えることができた食事だったかもしれません。お酒を買いえるお店は?との質問がメンバーからありましたが、カナダはライセンスを持つ酒屋やレストラン以外での酒類販売は禁止され、ホテル近くのコンビニエンス・ストアにも酒はおいでない、とのことでした。どうやら、酒に酔う姿を良しとしないお国柄のようです。

2日目 11月7日(木)

本日はトロント観光です。トロントの緯度は北海道旭川市よりも少し上のあたりで、この時期の日中最高気温は6〜7℃。天気は薄曇りでしたが、ナイアガラの大瀑布やトロント中心部のCNタワーの350mの展望台からの雄大な眺

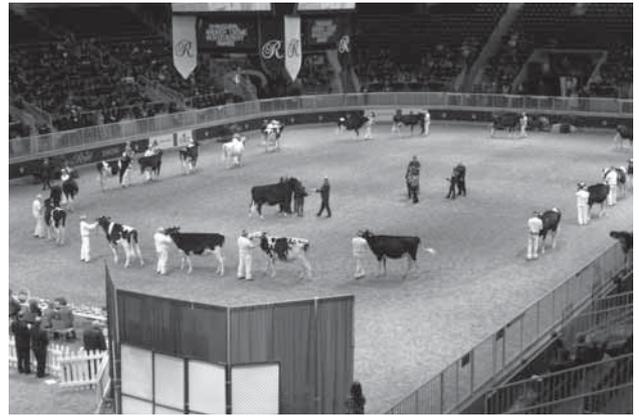
11月 6日(水)	成田空港よりカナダ(トロント)へ
11月 7日(木)	ナイアガラの滝とトロント市内観光
11月 8日(金)	ロイヤル・ウィンター・フェア視察
11月 9日(土)	サミットホルム農場(オンタリオ州)視察 クオリティホルスタイン牧場(オンタリオ州)視察
11月 10日(日)	空路、米国(サンフランシスコ)へ 米国酪農情勢についての講演
11月 11日(月)	ヒルマー・チーズ工場(カリフォルニア州)視察 トニーとファティマ ガルシア牧場視察
11月 12日(火)	空路、サンフランシスコより成田空港へ
11月 13日(水)	夕刻帰国、解散



▶カナダ滝をバックに



クラス10 2歳牛



ナショナル・ホルスタイン・ショー

めを堪能しました。CNタワーからの眺め、ここトロントがオンタリオ湖の湖畔にある街であることを実感しました。展望台からは、ロイヤル・ウインター・フェアの大きな会場も確認することができました。ガイドの説明では、この一帯は地震が全く無いため、ガラス張りの高層マンションが流行っている、とのことでした。地震の心配が無いことは、牛舎建設等のコストにも影響しているかもしれません。

**3日目**  
**11月8日(金)**

いよいよロイヤル・ウインター・フェア見学です。ロイヤル・ウインター・フェアは世界有数の農業博覧会で、10日間にわたり、農業関係の様々な催しが開催されます。広大な会場では共進会以外にも、北米各地から集められた農産物の展示や、ホース・ショウやドッグ・ショウなど、どこも大賑わいです。出展ブースも様々で、酪農畜産関連のブースはもちろん、馬術用品店、衣類やアンティークの店、車やトラクタの展示などもありました。アルパカやヤギと触れ合えるミニ動物園も開かれ、まさに収穫祭といった様相です。訪れる人々も、親子連れやスクールバスでやってきた子供の一団、授業の一環か牛のスケッチに取り組む学生風など様々。「人種のモザイク」と呼ばれるほど多彩な移民の街トロントだけあり、会場では多種多様な老若男女が祭りを楽しんでいました。

でジャージーやブラウンスイス、さらにはレッドの部門も設けられ、数多くの牛が出品されていました。控え牛舎も自由に行き来でき、本番前のピリピリした空気が味わえます。牛以外にも羊やヤギの品評会も開催されていました。

ナショナル・ホルスタイン・ショーは世界最高峰の名に恥じず、種牛などに疎い筆者にとつても、どの部門の牛も実にすばらしい仕上がりであることが感じられました。

共進会のオトリを飾るのはグランド・チャンピオン決定戦です。各部門から選出された1位・2位の牛の中から最も優れた1頭が決定されます。審査が始まり会場の照明が落とされると、華々しい音楽が流れ、鮮やかなライトが踊ります。スポットライトに照らされ、会場に牛たちが入場してくると会場から拍手で迎えられました。ショー・アップされたスタイルの共進会を初めて目にしましたが、さすがは本場、と思わせるものでした。審査委員長が講評を述べ、グランド・チャンピオンを発表すると、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。

**4日目**  
**11月9日(土)**

本日はトロント近郊の酪農家2軒の見学です。

まず1軒目は「サミットホルム牧場」。デーブさんとカールさんの兄弟にカールさんの息子の3人での協同経営で、当日はデーブさんに案内をいただきました。経産牛頭数は770頭、うち380頭が搾乳牛で、1日3回搾乳を16頭ダブルのミル



麦の共進会



グランド・チャンピオン 上位入賞牛



サミットホルム牧場 最近完成の育成舎も換気と鳥害防止を考慮



サミットホルム牧場 鳥が留まる梁が無い牛舎

牛は、どの個体もリラクセスしており、よく手入れの行き届いた牧場に感心させられました。搾乳牛舎の天井は高く、梁等も鳥が留まる場所が無いよう工夫されていました。牛舎は、水はけに留意されており、パーラーに繋がる牛舎中央部が、牛舎両端より、はつきりと低くなっている設計でした。平均産次3.5産、平均淘汰産次4.5産との成績も、この施設と管理があつてのことでしょう。バンカー・サイロは、隣の仕切り幅が1mほどある構造で、これならばトラクタでの踏み込み作業が安全に行える、と感心させられました。

視察終了時に集乳のためのローリーが入ってきましたが、近隣16軒の酪農家での共同所有である、とのことでした。

キング・パーラーで行います。検定量は12,700kgで、労働人員はこの他に搾乳パートなど、総勢8名です。480エーカーの圃場でアルファルファとデントコーンを作付けている、とのことでした。農場作業に関してはすべて業者に外注し、牧場の人員は搾乳や飼養管理に専念しているといえます。牛舎はフリーストールで、この1年で搾乳牛用牛舎が延長されています。牛群は分娩間近の牛や産次数で5つに分けられています。牛床には砂を用いており、バクテリアの繁殖を抑えられ蹄や乳房の事故がほとんど起こらないとのことです。カウ・コンフォートに配慮した飼養は牛の状態に直結しており、中には累計乳量16万kg達成するという牛もいました。清潔な牛舎の中で十分なエサを与えられた牛は、どの個体もリラクセスしており、よく手入れの行き届いた牧場に感心させられました。搾乳牛舎の天井は高く、梁等も鳥が留まる場所が無いよう工夫されていました。牛舎は、水はけに留意されており、パーラーに繋がる牛舎中央部が、牛舎両端より、はつきりと低くなっている設計でした。平均産次3.5産、平均淘汰産次4.5産との成績も、この施設と管理があつてのことでしょう。バンカー・サイロは、隣の仕切り幅が1mほどある構造で、これならばトラクタでの踏み込み作業が安全に行える、と感心させられました。

2軒目の牧場はサミットホルム牧場からバスで1時間ほどのところにある、有名なブリーダーでもある「クオリティホルスタイン牧場」です。当然ナショナル・ホルスタイン・ショーにも出品しているため、牧場側の案内は特になく、牛舎内の牛たちを自由に見学する形での視察となりました。元は牧草種子の販売業から始まり、土地を買い取って自ら牧場経営にも乗り出した、との説明をガイドから受けました。種子会社のクオリティ・シーズはナショナル・ホルスタイン・ショーの出品カタログにも広告が掲載されていました。過去、このショーでブランド・チャンピオンを出したこともあり、今回も出品牛が上位牛となっていました。当然、つなぎ牛舎に並ぶ牛たちは素晴らしい体型の牛たちであることは一目で分かりました。

トロントへ戻る途中、大型スーパーへ立ち寄りしました。日本でも最近話題のギリシャ・ヨーグルトが流行っているようで、ヨーグルトだけで棚を5m近く占めています。少し安い物を買いました。オンタリオ州の消費税率13%を頭にレジに並びましたが計算と合いません。レシートを見ると食品には軽減税率が適応されているようでした。日本でも数年後にはこのような経験をすることも、と実感した次第です。この後、たまたまトロントに暮らす日本人と話す機会がありました。物価も低く、非常に暮らし易い街だとのことでした。

※後編は来月号に掲載

(左義連 指導・企画部 内藤 晃尚)



クオリティホルスタイン牧場 ショーに直ぐにでも出せそうな綺麗な牛たち



クオリティホルスタイン牧場 ネームプレートに見入る参加者

平成25年度

# 全酪連会員担当者研修会

会員組織の機能強化のため、会員職員のスキルアップを図ることを目的とした会員担当者研修会を2カ所にて開催し、2講演を実施しました。

〔東日本〕 11月18日(月) 女性就業支援センター(東京都港区)  
〔西日本〕 11月20日(水) ホテルセントラージ博多(福岡県福岡市博多区)

前半は株式会社酪農経済通信社の稲葉武洋編集部長による「TPPの最新動向について」の講演が行われました。

## 概要

TPP交渉への日本の実質参加は8月の第19回会合(ブルネイ)からだが、この段階では酪農主要国との「オファー」交換ができず、市場アクセス分野で実質



稲葉武洋編集部長

交渉はインドネシアのバリ島における10月のTPP閣僚会合・首脳会合以降と見える。しかし交渉参加国が2年ぶりに内に発表した「閣僚報告書」を見ると、農産物関税を含む市場アクセス分野で大胆な整理が進んだ形跡は見えない。この首脳会合では「年内妥結」の目標と、そのための「交渉の加速」を宣言した。しかし例えば知財分野では先進国と途上国の間の利害対立が根深く、日本の農産物関税の問題だけが問題なわけではない。こうした情勢を受けて、12月19日からTPP首席交渉官会合が始まった。ここで合意に必要な整理が済めば12月上旬にもTPP閣僚会合で「年内妥結」となる。だが米通商代表部のフロマン代表は直前に「期限内に間に合わせるため、ひどい内容で合意するつもりはない。交渉の身中(妥結の)時期を決める」と発言している。このことは「年内妥結」を優先するあまり、日本にとって「優しい」合意

水準となる期待が薄いことを示すものだが、一方で交渉がますます簡単に進まなくなる状況を浮き彫りにしている。個人的な見解だが「年内妥結」が実現する可能性は「5分5分よりかなり低い」と見ている。

一方で日本の酪農情勢は、交渉結果以前に、国内の酪農基盤の縮小が顕著である。関税が撤廃されれば、国内酪農に深刻な影響が出るとの政府試算もあるが、現実には交渉参加前からすでに「交渉後の影響」と程度の変わらない生乳生産・酪農基盤の縮小が進んでいる。残念ながら現在でも後継者のいない酪農家は多く、10年以上の長い期間で見れば、次世代の酪農はただでも戸数が減少する。しかし国産生乳、牛乳乳製品への需要は、いきなり何割も減少するとは想定しにくく、市場の「評価」もある。世界最高水準と自信を持つて良いフレッシュで高品質な生乳を供給する日本酪農の長年の努



東日本会場

力によって、TPPの影響は必ずしも「悲観」ばかりではなくなっているのではなか。ここ10数年の酪農界の動きを見ると、「壊滅」のイメージを受け入れざるを得なかった予測とは明らかに異なる、「日本酪農の筋力」にも、あらためて検証の目を注ぐ必要がある。

現在、年度下期の生乳生産の下ブレも懸念されているが、その背景に想定をやや上回る中堅農家の離脱があるとも聞く。飼料高騰など厳しい現状もあるが、TPPを嫌気して離脱を急ぐ判断があるとするれば、いささか早計と思われる。「勝負は下駄を履くまで分からない」。

後半は、全酪連総務部法務・コンプライアンス課の有馬 勤特別嘱託員による「農協法について」の講演が行われました。

**概要**

農協法は、農業者が所属する協同組合を発達・促進するため制定された法律であり、組合員及び会員のための最大の奉仕が目的である。非営利を原則とし、収益が生じた場合、剰余金として組合員に配当を行う。農業者は正組合員として事業が利用できるのはもちろん、1人1票の議決権を有し、役員や総代になる権利も持つ。農業者でない場合でも当該農協地区内に住所を有する個人であれば準会員として事業が利用可能である（ただし議決権や役員等になる権利は持たない。詳細は各農協の定款参照）。組合員以外も一定の範囲内で事業利用が可能。

農協は組合員が15名以上で成立する。加入は原則自由であり、未成年者も法定代理人の同意があれば加入でき、1家族



有馬 勤特別嘱託員



西日本会場

で2人以上加入することも可能なので、例えば夫、妻、子供と加入することも可能である。脱退は60日前までに予告することで事業年度末に脱退可能。債務がある場合、出資金との相殺は出来ないが、組合員が農協に対し持戻請求権（債権）を行使すれば、債権債務で相殺することが可能。その他理事会・総会決議事項や書類の保管年数、役員の職務や責任など、基礎的な内容の復習。

共に興味深い内容のためか、参加者による質問も多くありました。実のある研修会になったのであれば幸いです。

なお、当研修会のご質問、資料請求のご希望がございましたら、全酪連指導企画部（03-5931-8003）もしくは各支所指導組織課までお問合せください。

# 新規就農 経営移譲 を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

**酪農ヘルパー全国協会**



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

**全国新規就農相談センター**



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓  
右下リンク

↓  
新規就農情報【(一)酪農ヘルパー全国協会】  
新規就農情報【全国農業会議所】

札幌支所発

## 「北海道酪農青年女性会議秋季研修会」開催

11月13日(水)、江別市小林牧場と酪農学園大学にて、「北海道酪農青年女性会議秋季研修会」が行われました。参加したのは北海道酪農青年女性会議委員8名。小林牧場では牧場で導入しているバイオガスプラントや先進的な飼養設備を見学しました。続

く酪農学園大学では、カラマツ材を使った牛舎設備や、普段あまり見ることのない動物病院内の見学をし、委員は担当の広報職員の方の話を熱心に聞いていました。

(T.K)



◀ 小林牧場



酪農学園大学牛舎設備の説明 ▶

札幌支所発

## 悪臭をチョコレートの香りに



10月31日(木)に北海道白糠郡白糠町内の牧場にて臭気対策実験が行われました。畑に肥料としてまかれる液肥に香料を加え、液肥の臭いをアーモンドチョコレートのような香りに変えるというユニークな実験です。今回で3回目となる公開実験では、薬剤の散布方法についての実証が行われました。散布パ

ターンは2つ取られ、1つは液肥散布と同時に薬剤を撒く方法、もう1つは液肥散布後に薬剤を撒く方法です。実験が始まるとスラリーの臭いが広がりましたが、薬剤が散布されるとチョコレートのような甘い匂いに代わっていききました。数年後の実用化を目指し、今後も実験を行っていくとのことです。(T.K)



▲ スラリータンクに薬剤散布機を増設



散布風景 ▶

東京  
支所発

## 東京支所管内 粗飼料事業研究会 「国内視察研修会 ～沖縄～」

10月31日(休)から11月2日(土)の3日間、沖縄県において東京支所粗飼料事業研究会(赤城酪連 須田会長)の「国内視察研修会」が開催され、8会員及び関係部署など総勢12名が参加しました。沖縄到着後、沖縄県酪農農業協同組合(新里代表理事組合長)に訪問し、久場参事より沖縄の特殊な酪農情勢・概況をご説明頂きました。乳価、飼料価格等深いところまで話して頂き、関東との違いを感じ取る



▲ 沖縄県酪協での会議風景



▲ 農場視察  
乳業工場前にて  
集合写真

ことができました。農協倉庫も見学し、入庫している乾草の種類・品質を確認しました。今年はUSチモシーが高騰しているため、他の禾本科牧草に移行している農家も多いようです。

その後、近隣酪農家を訪問し、沖縄の暑熱対策を見学しました。開放型の牛舎、ファンの台数・角度、給餌方法など特筆すべきところが多かったです。また、沖縄の乳業工場「宮平乳業」を訪問し、加工工程などを見学しました。

会員の皆様から現場にて様々な質問・意見交換があり、非常に有意義な研修会となりました。(S.T)

大阪  
支所発

## いも掘りで市民と交流!

堺市畜産農業協同組合(小西亨組合長)は、10月26日(土)～27日(日)に芋掘りとコスモス摘みの一般開放を行いました。芋掘りは今年で5回目になり、組合長からは「当初は、いのししに荒らされたりして上手く育てられなかった」と伺いましたが、電牧などの対策をして3年目から上手く育てられるようになったそうです。

今年は春に800株の芋苗を植え付け、半年かけて準備をしてきた甲斐があり、家族連れが大きく育った鳴門金時芋を収穫していました。参加された市民の中には、広報で見ても初めて参加されたという方や、昨年参加した際に美味しかったので、今年も子供を連れて行こうと楽しみにしていたという方もいらっしゃいました。

大阪という都市近郊の畜産団地で、酪農をされている酪農家と消費者とのこのような機会が今後も継続されるよう期待されます。(S.T)



大収穫です ▶



▲ 大きいお芋の予感!



▲ 牧場主の智治氏

No.247  
**黒内智治牧場**  
 栃木県高根沢町

## 地の利を活かし、 地域に根ざした酪農経営を目指す

### 地域の紹介

今回は栃木県塩谷郡高根沢町の黒内牧場をご紹介します。高根沢町は栃木県の中央、県都宇都宮市の東側に鬼怒川を挟んで隣接しています。日本のシリコンバレーと称される情報森とちぎ（R&D企業を集積する研究開発団地）や本田技研工業の工場が立地する最先端の工業団地がある一方で、中央部には広大な水田地帯が広がっており、古くから水田酪農、和牛繁殖・肥育の畜産業も盛んに行われてきました。田園風景は四季折々の自然の美しさを楽しませてくれ、遠くには高根沢の由来にもなっている雄大な高原山を望むことができます。また、町の南部に位置する安住神社は約500kgのジャンボ鏡餅の奉納で知られており、初詣の際には多くの参拝客で賑わいます。

黒内牧場が所属する栃木県酪農業協同組合（石川正美代表理事組合長）は、生乳出荷戸数223戸、生乳生産量77,003t（H24年度実績）となっております。

### 牧場の概況

家族構成は経営主の智治さん（38）、奥さんの真紀さん（40）、智治さんのご両親の正治さん（62）とスミ子さん（60）、そしてお子さん



牛舎全景





細断型ハーベスタ。デントコーンだけでなくイネWCSもこの機械で収穫。  
定置式コンビラップ機で全量ラップサイレージ調製



定置式コンビラップ機



育成牛舎

昭和46年に元経営主の正治さんが20頭対尻式牛舎を建設し、搾乳牛を

### 牧場の歴史

の茜季ちゃん(11)、大雅くん(8)、月紫ちゃん(7)の7人家族です。現在、経産牛50頭、自家育成牛25頭を飼養しております。平成24年度の年間生乳出荷量は381tです。牧場の作業は智治さんが牛舎作業全般を、正治さんが育成牛管理を、スミ子さんが哺育牛管理を担当しており、圃場、水田作業には真紀さんも加わって4人態勢で作業を行います。

### 自給飼料生産の強化

黒内牧場では先代の正治さんの頃から平野部の特性を活かし、稲作10町歩、イタリアンライグラス8町歩、ビール麦5町歩、デントコーン10町歩と自給飼料の生産に力を入れてきました。智治さんが就農されてからは、減反水田や耕作放棄地を借り受けるなどしてさらに自給飼料基盤を拡大し、現在は稲作16町歩、イタリアンライグラス8町歩、ビール麦9町歩、デントコーン17町歩の生産を行っています。また、5年ほど前から近隣の減反水田において16町歩ほどイネWCSの生産に取り組んでいます。自牧場で消費し切れないイネWCS、稲ワラについては近隣の酪農家、肥育農家に販売しており、飼料高騰の厳しい酪農情勢のなかで

導入したところから黒内牧場の酪農経営がスタートしました。その後、昭和54年に38頭規模に牛舎を増築。さらに平成2年に育成牛舎を、平成5年に乾乳牛舎をそれぞれ建設し、施設の拡充を図ってきました。平成10年に大学卒業後、そのまま大学で学生指導補助業務に就いていた現経営主の智治さんが就農。酪農へルバーをされていた真紀さんとの結婚を機に、平成15年に70頭規模のフリーストール牛舎を新設し、現在に至ります。

経営の一助となっています。

智治さんは「飼養頭数、圃場面積以上の、一見不必要とも思われる大型の農業機械を導入してきたからこそ、作業速度が速くなり、休耕田や耕作放棄地での自給飼料生産基盤の拡大につながることができた」とおっしゃいます。飼養頭数以上の自給飼料基盤を有しているため自家産の堆肥だけでは全量を賄うことができず、近隣の和牛農家で大量に発生する堆肥の処理にも一役買っており、地域内における資源循環に貢献



牛舎内の様子



搾乳の様子(LELY社製搾乳ロボット)搾乳中に乳量に応じて差し餌を給与している

されていることも大きな特徴として挙げられます。

### 搾乳ロボットの導入

フリーストール牛舎新設の際に、省力化のためLELY社製の搾乳ロボットを導入しました。智治さんは根っからの機械好きなこともあり、搾乳ロボットの導入には「大きな不安はなかった」と言います。乳頭の形状がロボット搾乳に不向きな

牛、どうしてもロボットに入らないような牛は旧牛舎で別飼育して搾乳を行っており、フリーストール牛舎にはロボットに合う牛しか置いていません。それでも、「つなぎ牛舎で飼っていたときと作業時間は大きく変わらないものの、体への負担は軽減できた。その分を水田、圃場作業に向けることができたことも自給飼料基盤を拡大できた一因」と省力化が新たな取り組みへの喚起につながったことが窺えます。

### 今後の目標

智治さんは、「自分のところで生産した良質な自給飼料を牛に食べさせるのが酪農の基本」とおっしゃいます。その上で、「安心・安全な牛乳を消費者に届けるのはもちろんのこと、国際競争力のある酪農を目指すためにも、濃厚飼料も含めて自給飼料割合をできる限り100%に近づけていきたい!」、「農業従事者の高齢化により今後さらに農業人口の減少が進み、耕作放棄地の拡大が懸念されることから、そのような土地を荒廃させることなく活用していくことで地域に貢献していきたい!」、「日本の酪農をますます発展させていくためにも、実習生を受け入れ、後継者育成に力を注いでいきたい!」と3つの熱い想いを語って下さいました。

### 最後に

ご多忙の中、快く取材に応じて頂き感謝申し上げます。農繁期にはそれこそ多忙を極める智治さんですが、そのような最中でも趣味のゴルフに出かけたり、オンとオフの切り替えが非常に上手で仕事もプライベートもどちらも楽しまれている姿がとても印象的でした。

黒内牧場の今後ますますの発展とご活躍をお祈り申し上げます。



旧搾乳牛舎。ロボットで搾乳できない牛はこちらでつなぎ飼っている



牧場主の智治氏と栃酪 市田推進員



堆肥舎

# 平成26年1月から、 記帳・帳簿等の保存制度の 対象者が拡大されます

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の金額の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税及び復興特別所得税の申告の必要がない方を含みます。)について必要となります。

記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、

国税庁ホームページ▶ <http://www.nta.go.jp> に掲載されていますので、ご覧ください。

詳しくは、**最寄りの税務署**にお問い合わせください。

お知らせ

## 今冬の節電について

政府は、先月上旬、今冬の電力需給対策を決定し、北海道は夕方～夜の時間帯に2010年度比▲6%以上の数値目標を設け節電に取り組むとともに、全国では数値目標を設けないものの現在定着している節電の取組を確実に行うよう、企業や家庭に対して要請することを発表しました。

詳細につきましては、**経済産業省のホームページ**▼

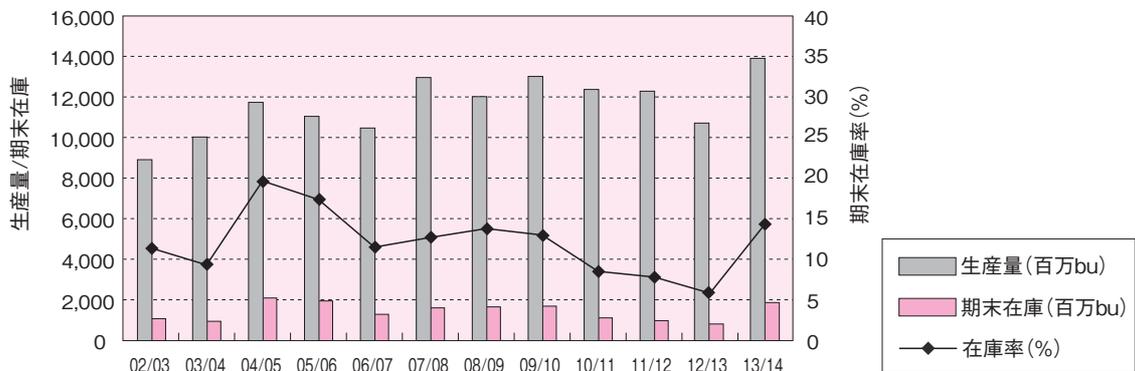
<http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html>

でご確認ください。

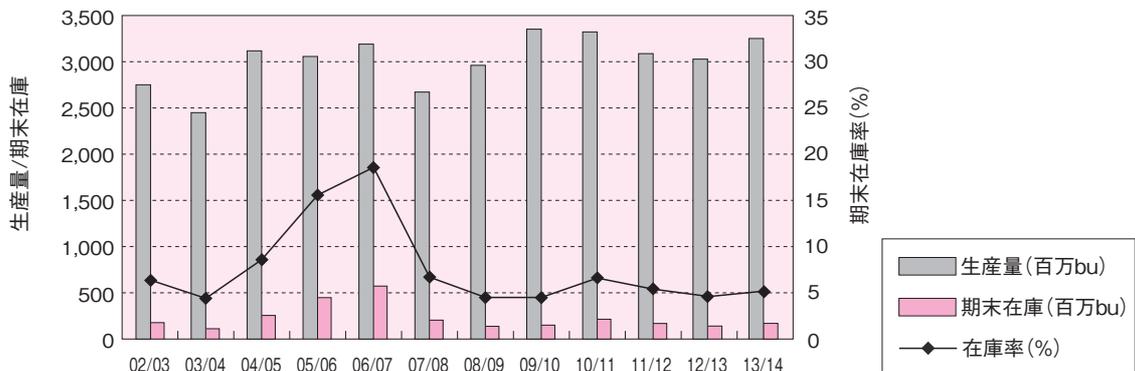
# 原料情勢 平成25年11月

11月8日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【12/13年産】 作付面積97.2百万(前々月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4)bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万)bu、総需要量111億800万(112億7,000万)bu、期末在庫8億2,400万(6億6,100万)bu、在庫率7.4(5.9)%。</p> <p>【13/14年産】 作付面積95.3百万(前々月97.4百万) エーカー、単収160.4(155.3) bu/エーカー、生産量139億9,890万(138億4,300万) bu、総需要量129億5,000万(126億7,500万) bu、期末在庫18億8,700万(18億5,500万) bu、在庫率14.6(14.6)%。</p>
トウモロコシ 相場動向	産地では乾燥気味の天候となり、収穫も順調に進んだことから弱含みの展開。10月は米国農務省予想発表が中止になったものの、民間調査会社の予想等で生産量の増加、需要の減少が見込まれ、現在は430¢前後の値動き。主産地の米国中西部では豊作が確実な様相。南米産はシカゴ相場の下落の影響から13/14年産に関しては作付面積・生産量の減少が予想されており、日本の輸入市場も米国回帰が進むものと思われる。米国では相場の下落により、一部では生産者の売り控えも見られる中、\$4を割り込むかが今後の争点となる。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、作付面積・収穫面積が減少したものの、単収が改善されたため、期末在庫見通しは1億7,000万(1億5,000万) bu、在庫率5.2(4.8)%となった。シカゴ大豆相場は、南米の増産見込みや米国の単収改善により軟調に推移しているものの、需要が旺盛であり、中国の更なる買付の可能性もあるため、一時よりは値を切り上げ、現在は1,300¢前後の値動き。輸入大豆粕についても、弱含みの展開ではあるものの、国内外の旺盛な需要から値を下げ続けている。今後は、南米の生産量や中国の需要量が相場に影響すると思われる。
槽糠類	フスマの発生量は大きく変動していない。使用量はグルテンフィードの代替で増加すると思われたが、ほとんど変動していない。現時点での需給は適正であり、輸入ふすまの入船もあるため、安定して推移する見込み。グルテンフィード発生量は、ピークを過ぎ減少傾向であり、今後はスターチメーカー工場の定期修理も予定されているため、更に減少する見込み。現時点での受け渡しに問題は無いが、使用量が減少しない限りタイトな状況になると見込まれる。
海上運賃	原油相場は、低調な米雇用関連指標、ユーロ圏の失業率上昇など世界景気低迷を背景に弱含みの展開。海上運賃は、中国向け鉄鉱石輸出が小康状態になったものの、北米穀物輸出の本格化、新造船竣工が徐々に減少しており、船腹需給が逼迫することが予想され、総じて強含みの展開。

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移



# 輸入粗飼料の情勢

平成25年11月

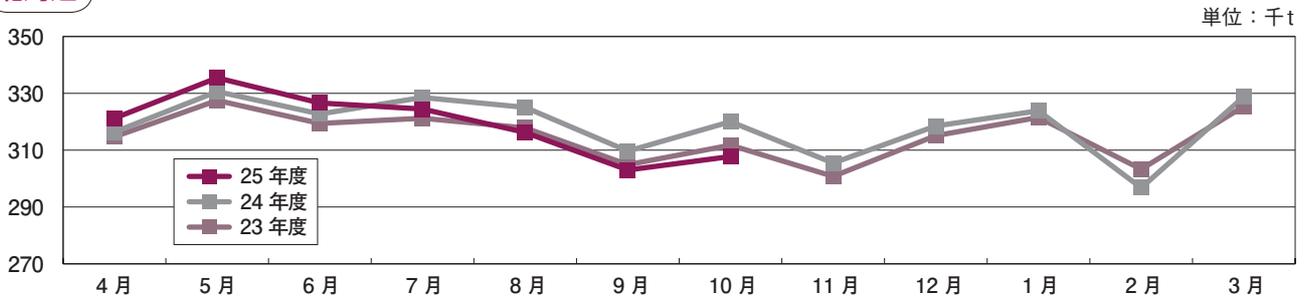
北米コンテナ船 フレート	10-12月分のBAF(燃料費調整係数)は、多くの会社で10月から\$5の値上げが実施された。GRI(基礎レート)は11月に値上げ実施の発表をしているが、値上げの開始時期や運用航路は様々である。PSWのロサンゼルス/ロングビーチ港では船腹スペースに余剰感があるが、シャーシの無料貸出を停止する会社が増えている模様。PNWでは輸入量が輸出量に追いついておらず、空コンテナが不足した状態が続く。
ビートパルプ	<p>【米国産】13年産ビート大根の収穫は9月上旬から、製糖とビートパルプ生産は9月中下旬から開始と、例年よりも遅い進捗。砂糖の相場価格が低調に推移しており、かつ作付の遅れによる単収減が予想されることから、13年産の作付面積・生産量は前年より減少する見込み。</p> <p>【中国産】13年産作付面積が前年よりも減少し、また生育中の天候も良くなかったため、生産量は前年比25%減と伝えられている。国内向けの需要がさらに増えることが予想されるため、韓国や日本向けの輸出量は今後も限定的になる見込み。</p>
アルファルファヘイ	<p>【ワシントン産】13年産について、1番刈は雨当たり被害が多く発生し、2番刈は生育中に暑乾燥した気候が続き、分析値の良くないスタックが発生した。3番刈は雨当たり品や色あせが目立つスタックが多く発生し、4番刈も4割雨当たりが発生し、ノーレイン品もドライな品質のスタックになるなど、全ての番手で良品の発生が少ない結果となった。日本向けはPSW産にシフトしつつあるが、UAEや中国向けはワシントン産も引き合いが順調なため、産地価格が下支えされる要因となっている。</p> <p>【オレゴン産】クリスマスバレーでは、1番刈は4割、2番刈は8割が雨当たりとなり、3番刈については降雨の影響により収穫スケジュールが遅延し、収穫適期を過ぎたドライな品質のスタックが多く発生している。かろうじて輸出向けに出荷可能なスタックも引き合いは強く、1番刈よりも高値で推移している。クラマスフォールズでは、1番刈で1～2割の雨当たりが発生したが、2番刈は大きな雨当たり被害が発生しておらず、3番刈は2割の雨当たりが発生。しかし、ノーレイン品は茎細ながら葉量があり、良品のスタックもいくらか見受けられる様子。</p> <p>【ネバタ産】1番刈は2～3割の雨当たり被害が発生した。2番刈は、生育中に暑乾燥した気候が続き分析値の良くないスタックが発生した。8月上旬から開始された3番刈についても雨当たり被害が多く発生している模様。</p> <p>【ユタ産】1番刈は雨当たり被害がほとんどないが、収穫適期を過ぎていたため分析値のあまり良くないスタックが多く発生した。2番刈は5割、3番刈も雨当たり被害が多く発生し、良品は限定的と伝えられている。4番刈も一部で雨当たり被害がある模様。UAEや中国向けの需要増により、サプライヤー間での買付競争が激しくなっており、産地価格も順調に推移している。</p> <p>【カリフォルニア産】北カリフォルニアの2番刈は良品が多く発生したが、3～5番刈時期に湿度が高くなった影響により、色あせが目立つスタックが多く発生している。</p>
チモシー	<p>【米国産】主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、1番刈で8割の雨当たり被害が発生し、2番刈も雨当たり被害が多く発生する“史上最悪な厳しい作柄”となった。産地価格も堅調に推移し、中間以上のグレードはさらに高騰している。10月出港分から屋内くん蒸費用を加算しており、他草種への移行も視野に入れる必要があると思われる。作柄の良し悪しに係わらず“儲かる”農産物として産地では定着しており、14年産の作付面積はさらに増えることが早くも見込まれている。</p> <p>【カナダ産】レスブリッジの1番刈は雨当たり被害が多く発生しており、ハイグレード品の発生は限定的。ドライランドの1番刈も雨当たり被害によりハイグレード品の発生は限定的で、馬用プレミアム品は皆無に近い状況だと伝えられている。カナダ産も作柄は悪く、また米国のサプライヤーも自社不足分を補うため買付に来ており、産地価格は手の届かないところまで高騰しているのが現状。</p>
スーダン	【インベリアルバレー産】1番刈は、収穫前に暑い気候が続いたこともあり、茎サイズバラつきがあり、予想以上に茎細品が少ない模様。早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅時き(アフターウィート)は、茶葉混じりのスタックが多く発生した。チモシーの情勢から引合いは強くなっているが、茎細品やきれいなスタックが少ない上、買付がほぼ終了しているため、日本向けの需要は北カリフォルニアやワシントン州にも移行していると伝えられている。そのため、産地価格も強含みで推移している。
クレイン グラス	インベリアルバレーの10/15時点での作付面積は前年対比110%。生育期と収穫時期に暑い時期が続いたことにより、1、2番刈は良品の発生が多かった。3～4番刈は色あせが目立つスタックの発生もあったものの、良品も発生している。産地価格は前年よりも少し軟化して推移している。日本・韓国向けに引合いが強まってきているとも伝えられているが、科本科牧草の中では割安感もあるため、チモシーからの切り替えも有益であると思われる。
ストロー類	13年産の米国産ストロー類の収穫は、トールフェスクは7月上旬から、ライグラスは7月中旬から開始。雨当たり被害はほとんど発生していないが、特にトールフェスクは韓国向けの引合いが堅調であり、産地価格は軟化せずに推移している模様。
オーツヘイ	13年産について、今年は雨当たり被害が多く発生している。西では収穫がほぼ終了しているが、5～6割の雨当たり被害が発生している。軽いものから5、6回当たっているものまで、被害は圃場・スタックにより大きく異なる模様であり、ノーレイン品の発生は限定的となる見込み。南でも収穫はほぼ終了しているが、3～4割の雨当たり被害。西と比較すると被害は軽い、ノーレイン品は収穫時期の中盤以降に生産されたものが多く、分析値のあまり良くない傾向であるとも伝えられており、ハイグレード品は限定的となる見込み。東では、収穫が終盤を迎えている。西・南に比べると雨当たり被害は少ない模様。ただし、東は酪農・肥育の生産州であるため、国内向けの生産が大半を占めており、輸出向けにどれほど確保できるか、動向が注目されている。

# 生乳受託販売乳量

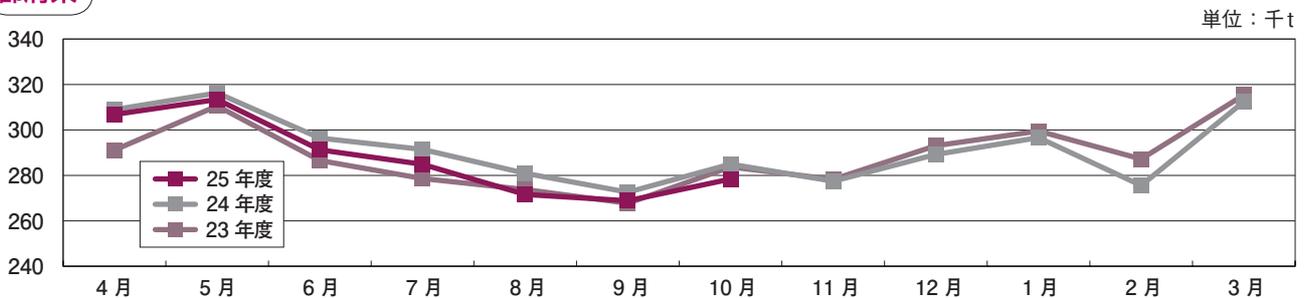
## 受託販売乳量

全国	586,155t で、前年同月に比べ 18,846t(3.1%) 減少した。	都府県	278,401t で、前年同月に比べ 6,577t(2.3%) 減少した。
北海道	307,754t で、前年同月に比べ 12,269t(3.8%) 減少した。		

### 北海道

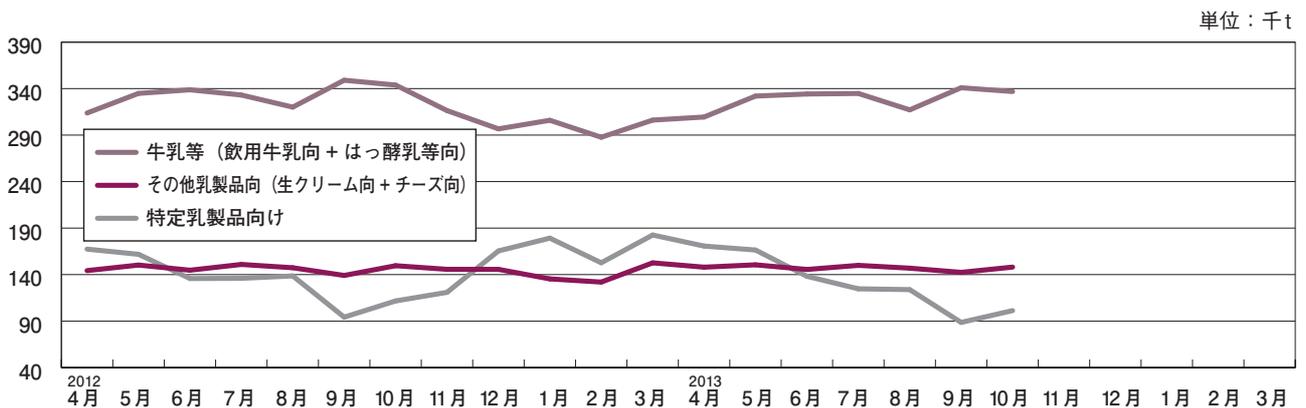


### 都府県



## 用途別販売数量

飲用向	295,327t で、前年同月に比べ 6,233t(2.1%) 減少した。	チーズ向	38,768t で、前年同月に比べ 685t(1.8%) 増加した。
はっ酵乳向	41,505t で、前年同月に比べ 741t(1.8%) 減少した。	特定乳製品向	101,276t で、前年同月に比べ 10,372t(9.3%) 減少した。
クリーム向	109,278t で、前年同月に比べ 2,184t(2.0%) 減少した。		



## 各地の需給動向

\*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

- 【仙台】** 10月生産は前年比97.5%。上旬は計画から上振れしたが、中下旬は減少したまま推移した。一方需要は、乳価値上げの影響で飲用消費減少が懸念されたが、堅調に推移し連休を境に生産減もあり逼迫傾向となった。その結果、飲用牛乳向けは99.1%、特例乳製品向けは83.0%と大きく減少した。
- 【関東】** 生産は、上旬は前月から日量横ばいで推移していたが、中旬に暑さがぶり返し減少。下旬もそのまま横ばいで推移した結果前年比97.9%と減少。一方需要は中旬から好調となり、生産減と重なり逼迫した。その結果、飲用牛乳向けは99.7%、特定乳製品向けは99.8%とほぼ前年に近い数字となった。
- 【東海】** 生産は上旬、緩やかに回復していたが、中旬に落込み、下旬もそのまま推移した。その結果、10月全体では前年比98.2%となった。
- 【近畿・中国・四国】** 生産は上旬各地とも97%台と見込みに近い水準であったが、中旬にかけて日量減少。下旬も回復せず、近畿96.4%、中国97.4%、四国97.4%となった。一方需要は、上旬から大幅増となり、中下旬も順調に推移し、逼迫した。(飲用牛乳向け前年比：近畿96.4%、中国96.2%、四国99.5%)
- 【九州】** 生産は上旬に9月下旬から見て日量減少、中旬にはさらに減少した結果、全体では前年比98.1%となった。一方需要は月を通して好調を維持し、需給は逼迫した。その結果、飲用牛乳向けは96.7%、特定乳製品向けは77.4%と大きく減少した。

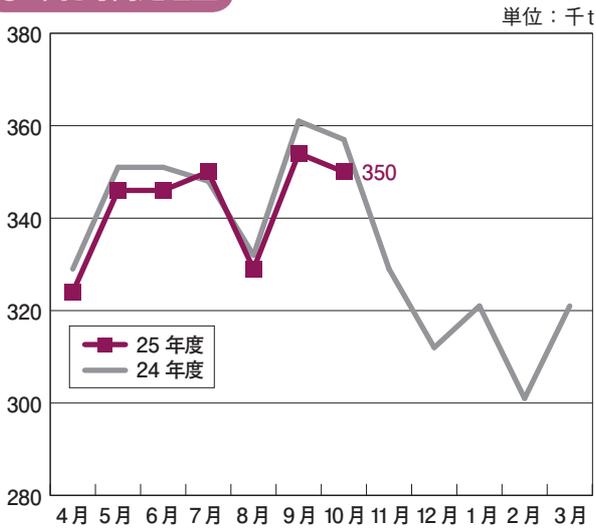
# 用途別生乳処理量

単位：千t

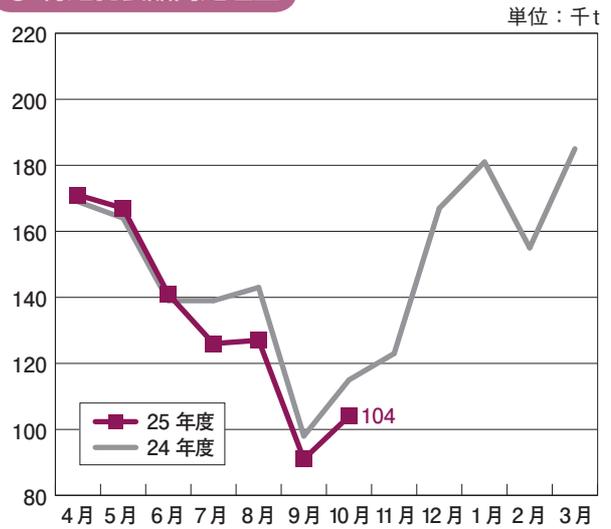
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向			クリーム向 ③	チーズ向 ④	牛乳等向 ①			乳製品向	クリーム向 ③	チーズ向 ④				
			特定乳製品向 ②	その他乳製品向										特定乳製品向 ②	その他乳製品向		
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月	593	588	354	235	91	144	107	37
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月	608	604	350	253	104	150	109	40
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月								
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月								
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月								
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	4,401	4,368	2,399	1,968	926	1,042	751	291

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

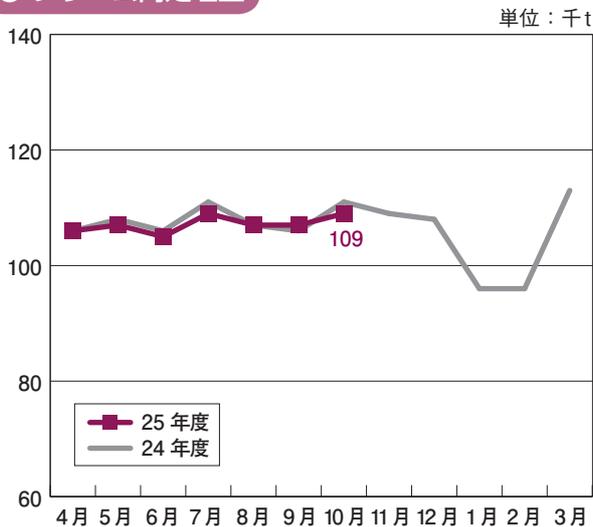
## ① 牛乳等向処理量



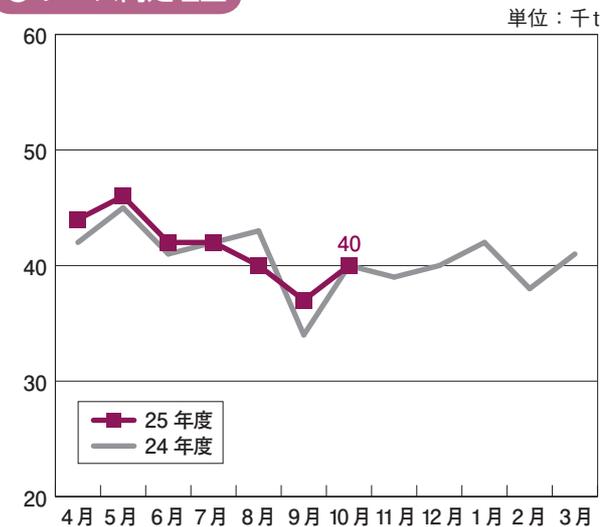
## ② 特定乳製品向処理量



## ③ クリーム向処理量



## ④ チーズ向処理量



## 特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

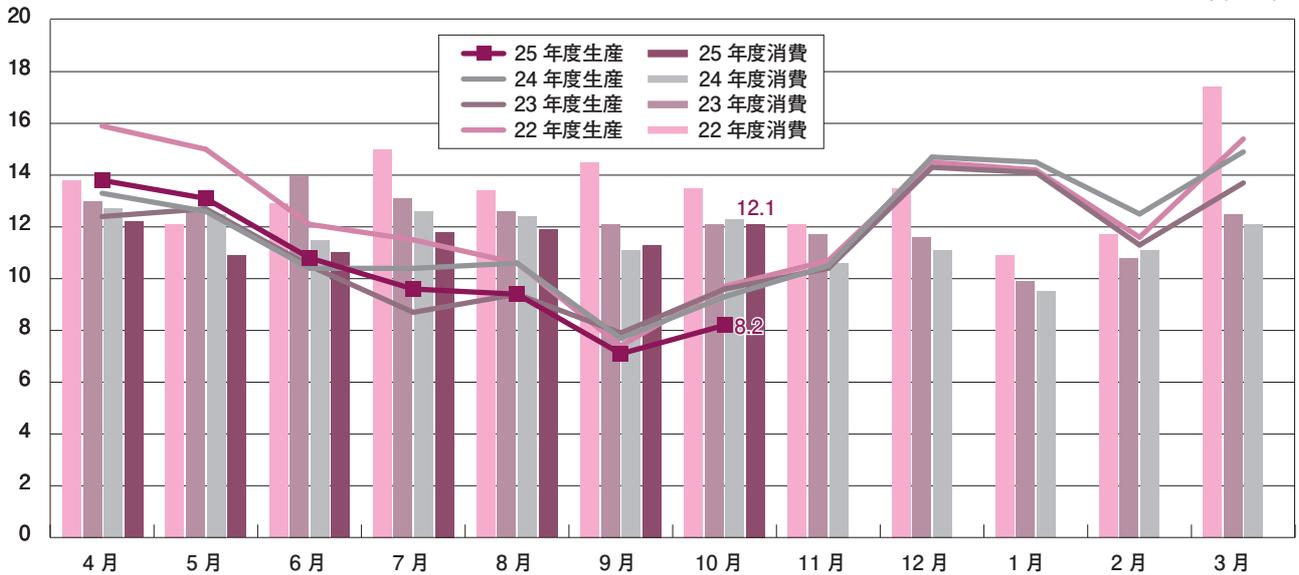
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	10.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.0	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	11.8	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月	9.4	11.9	5.1	5.7
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月	7.1	11.3	3.6	5.0
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月	8.2	12.1	3.9	5.5
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月				
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月				
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月				
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月				
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	72.0	81.2	37.4	39.4

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

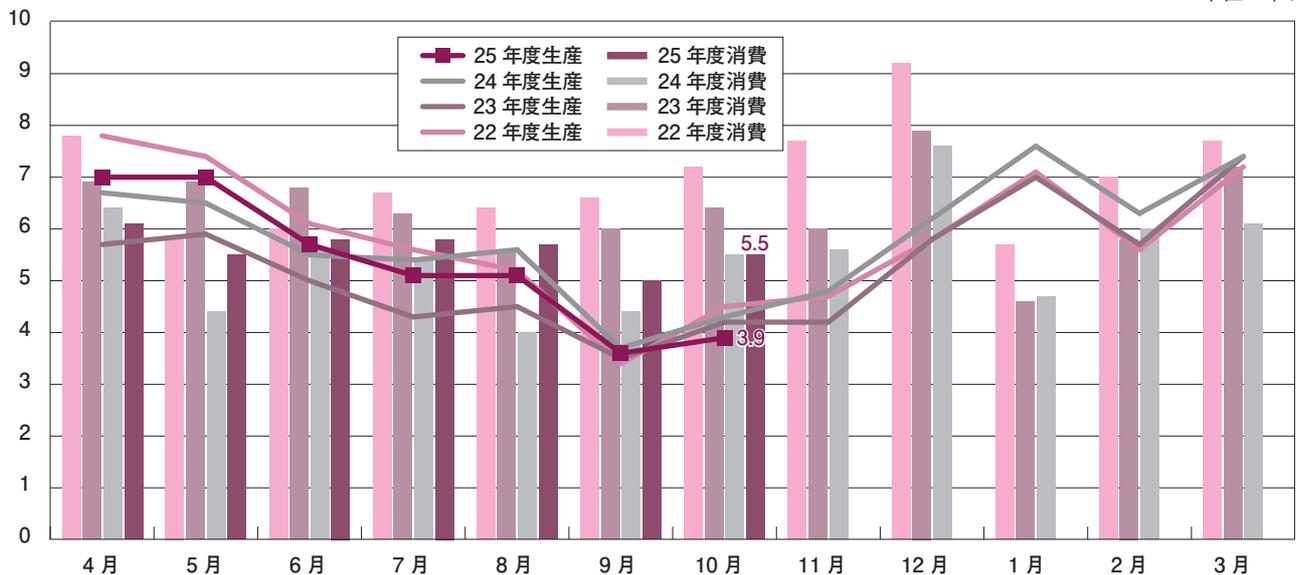
### 脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



### バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



## 脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

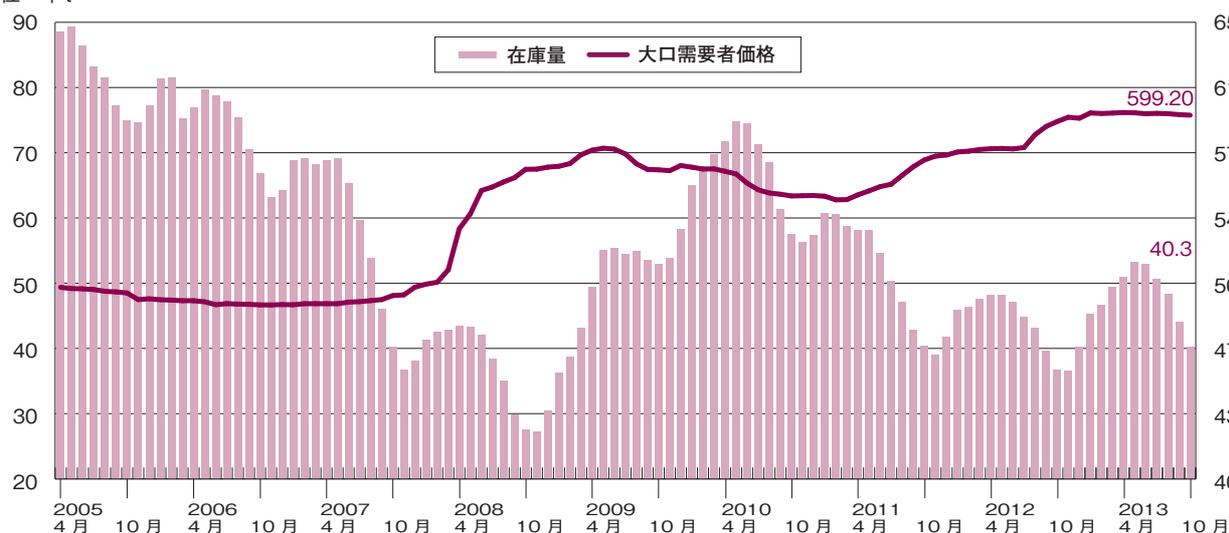
区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	24.5	1,178	48.3	600.00
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月	23.0	1,178	44.1	599.50
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月	21.4	1,177	40.3	599.20
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	169.8	8,243	340.6	4,200.00

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

### 脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

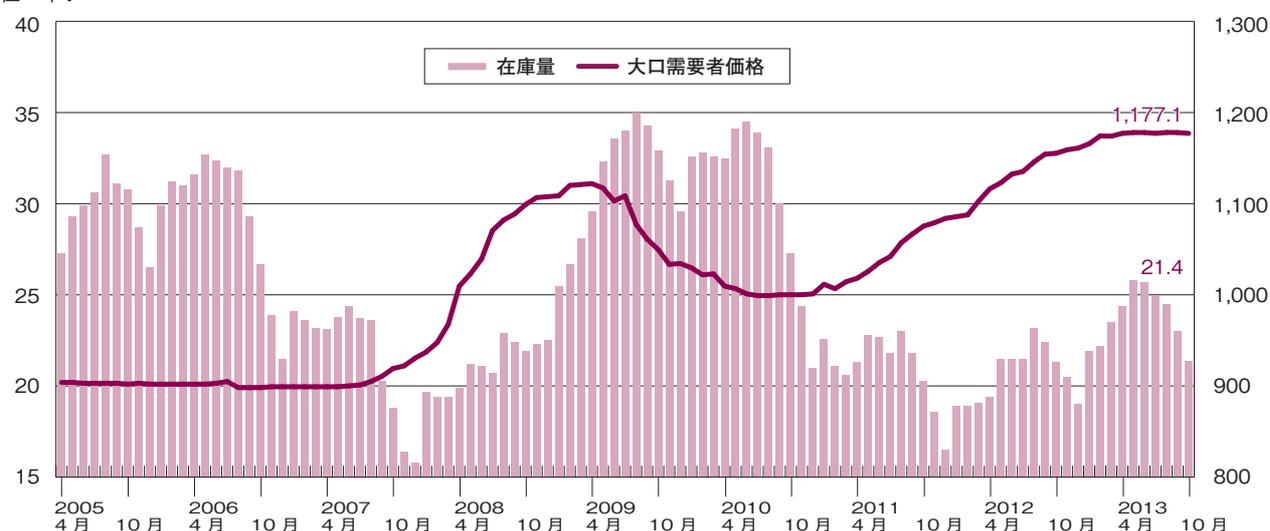
単位：千t



### バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

単位：千t



# 北海道 乳牛産地情報

平成25年12月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~32	→	11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で95.4%、累計98.1%、苫小牧管内月計で96.5%、累計96.4%。12月の初妊牛動向は、3月分娩中心の購買になり、年越し前の資金確保のための販売等が増加し資源的には多くなりますが、品質によるバラツキは大きくなるものと思われま。品質、腹条件の良いものについては横這いで取引され、同様に育成牛も、月齢、品質による価格差は大きくなりますが良質物は横這いで取引状況になるものと思われま。天候が激しく変わる時期ですので、体調管理には十分注意をして購買を宜しくお願いします。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~35	⇩	11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で96.2%、累計99.5%、中標津管内月計で94.6%、累計97.4%。12月の初妊牛動向は、相変わらずメガファームの動きが活発であり、当管内は生乳生産が減少している事により、農協によっては増産体制に向けて助成金を打出し、増産意欲を掻き立てています。相場は、F1腹とホルズ腹の価格差は大きく、ホルズ腹の注文の多くは選別腹希望となっています。初生牛の牛種の価格差や、地域によっては飼料価格の高騰により自家育成牛の保有を敬遠していることから、F1腹の荷動きはより強くなると思われま。年内の輸送も20日頃に終了するため、車物にならない注文については、早めの手配をお願いします。
	初妊牛	48~57	→	
	経産牛	40~47	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で99.4%、累計で100.2%の実績となっています。12月の初妊牛動向は、2月~3月の分娩腹を中心に動き、F1腹の引き合いが強く、逆にホル腹の引き合いは弱くなっておりま。また、牛なりでの評価は鮮明で、上物は高く、スノ物は安いという価格差がはっきりと出てきておりま。荷動きも激しい時期ですので、余裕をもってお早目にご注文いただきますようお願い申し上げます。
	初妊牛	50~56	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~30	⇩	11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.1%、累計で99.7%、北見管内月計で96.8%、累計で99.3%の実績。12月の初妊牛の動向は、2月~3月分娩が中心で動き、都府県でのF1牛の価格が高いためF1腹の引き合いが強くなっています。一方、ホル腹、雌雄選別腹の引き合いは弱く、購買し易い価格帯となっています。都府県の購買需要も増加し、荷動きが激しくなっている為、分娩時期には余裕を持ち注文されますようお願い申し上げます。年末は特に車の手配も混雑しますので、早めの手配をして頂きますようお願い致します。
	初妊牛	48~55	→	
	経産牛	40~45	⇩	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~35	→	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は96.7%、累計で99.0%の実績。12月の初妊牛動向は、相変わらずメガファームの導入が中心となり、また、道内の生乳生産の減少により、初妊牛の保留対策、導入助成など各々地域での増産対策なども絡み、さらに年明けの価格上昇なども見越して、購買が集中すると思われま。12月については20日頃が最終出荷となり、輸送も混雑されるため、年内導入希望の予定がありましたら、最寄りの全酪連支所に早めの連絡をお願いします。道内も、地域によっては雪が多く降る場所もありますので、暖かい服装で来道されるようお願い致します。
	初妊牛	48~56	→	
	経産牛	43~48	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

熱下がったかなあ、早く元気になってね

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で入選された「熱下がったかなあ、早く元気になってね」(福島県 小林 加代子氏撮影)です。子牛を心配して熱を測ろうとするお子さんがなんと可愛らしい!子牛を心から心配している様子が伝わる作品です。



▼今年も1年、ご愛読いただき本当にありがとうございます。来年度以降も、より興味を持てる内容の掲載を目指しますので、よろしくお願いたします。

▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

編集後記



平成25年12月10日発行(毎月1回10日発行)

**ZENRAKUREN**  
 MEMBER'S INFORMATION  
 全酪連会報 12月号 No.579

●編集・発行人 中島 裕志郎  
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号  
 TEL 03-5931-8003  
 http://www.zenrakuren.or.jp/

11月号

新年のご挨拶	2
全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 砂金甚太郎 農林水産省生産局長 佐藤一雄	
ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 報告(後編)	5
グループ活動紹介 / 枝幸4Hクラブ	8
酪農部だより / 本会狭山工場の歩み	10
購買部だより / 自給粗飼料をもっと活用しよう!	12
酪農トピックス / 酪農出前講座「うつくしまも〜も〜スクール」2年ぶりに開催!(仙台ほか)	13
日本酪農見て歩紀 / 静岡県富士宮市 赤池牧場	19
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年12月)	22
平成24年度11月 生乳生産量と用途別処理量	24
広告 / 全酪連 酪農セミナー・ワークショップ2013開催のご案内	26
今月の表紙 / 双子じゃないよ!親子だよ!	27
今月の子どもギャラリー / 三里小学校(九州)2年 唐島葵	28

12月号

全国酪農青年女性会議 引調委員長に聞く!	2
嫁・婿が語る酪農の魅力 / 高橋悦子さん	4
管理部だより / 消費税法改正に関する今後の動向	6
全国酪農青年女性会議 平成24年度研修会	8
酪農トピックス / 2012年市功労者表彰(北福岡)ほか	9
日本酪農見て歩紀 / 岩手県滝沢村 下平牧場	12
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年1月)	16
平成24年度12月 生乳生産量と用途別処理量	18
人事異動	20
今月の表紙 / いっぱいお乳出たね!	21
今月の子どもギャラリー / 大泉東小学校(関甲信)2年 小倉健太郎	22

1月号

平成25年度 畜産物価格及び関連対策について	2
平成23年度 会員概況調査より	3
平成24年度 監事・役員研修会	7
グループ活動紹介 / 飛騨酪農乳用牛群検定組合	8
監査室だより / セクハラ・パワハラと監査	10
酪農トピックス / MILK JAPAN in 山陰 開催される(大阪)ほか	12
日本酪農見て歩紀 / 鹿児島県霧島市 霧島第一牧場	16
作品募集のお知らせ	19
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年2月)	20
平成24年度1月 生乳生産量と用途別処理量	22
酪政連活動報告	24
平成24年度 全酪連会報 読者アンケート	25
今月の表紙 / あ〜ねむたい(-_-)zzz	27
今月の子どもギャラリー / 札苗緑小学校(北海道)3年 巽奈々美	28

2月号

若手後継者の本音 / 松谷圭一郎さん	2
全国酪農青年女性会議 野村副委員長に聞く!	4
第64年度(平成25年度)事業計画案	6
「国益を守れないTPP交渉参加断固反対緊急全国集会」約4,000人集結!!	9
酪農トピックス / 飛騨酪農農業協同組合女性部(飛騨酪農農業協同組合より)ほか	9
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年3月)	14
平成24年度2月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	16
日本酪農見て歩紀 / 大阪府羽曳野市 大阪府立環境農林水産総合研究所	20
広告 / 血糖値コントロールで糖尿病&肥満の予防・改善を	23
広告 / 全酪連 酪農セミナー・ワークショップ2013開催のご案内	25
人事異動	26
今月の表紙 / 早く大きくなってね!	26
今月の子どもギャラリー / 福島第二小学校(東北)2年 小林純愛	27
広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会	28

3月号

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 堀川拓生さん	2
監査室だより / 東京ディズニーリゾートのマネジメントと監査	4
酪農トピックス / 牛乳料理コンクール入賞作品を県庁食堂で提供(大阪)ほか	6
新入職員入会式	12
日本酪農見て歩紀 / 三重県大紀町 菌部牧場	13
後継者支援チームの発足について	15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年4月)	16
平成24年度3月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	18
酪政連活動報告	22
広告 / ニューメイスター	23
今月の表紙 / (奥の牛から)ちょっと待ってよ!忘れ物だよ~	24
今月の子どもギャラリー / ゆがわ幼稚園(東北)4歳 渡部快麻	25
広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会	26

4月号

第42回全国酪農青年女性酪農発表大会発表者決定!!	2
若手後継者の本音 / 橋本圭介さん	6
全国酪農青年女性会議 / 内ヶ島監事に聞く!	8
酪農トピックス / 蒜山酪農女性部50周年記念誌お披露目会(大阪)ほか	10
日本酪農見て歩紀 / 群馬県前橋市 井野重明牧場	14
栄えある春の叙勲褒章・受章記念祝賀会	17
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年5月)	18
平成25年度4月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	20
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について	24
広告 / Zenraku Summer Gift	26
今月の表紙 / 牛さんって大きいな~	28
今月の子どもギャラリー / 北吉井幼稚園(西日本)4歳 松岡陸斗	29
広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会	30

5月号

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 渡会智花さん	2
購買部だより / DMSシステム 平成24年集計結果	4
父の日に牛乳を贈ろう!	6
酪政連活動報告	12
第40回らくのうこどもギャラリー入賞作品紹介	13
酪農トピックス / 「がんばろう東北の酪農」キャンペーンを開催!(仙台)ほか	16
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年6月)	20
平成25年度5月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	22
日本酪農見て歩紀 / 山形県上山市 木村清吉牧場	26
後継者支援活動のイメージ	28
今月の表紙 / おねえちゃんみたいにできたかな	29
今月の子どもギャラリー / 豊富小学校(中部)3年 清水胡遥	30

6月号

第64年度(平成25年度)通常総会開催される	2
第42回 全国酪農青年女性酪農発表大会①	5
全国酪農青年女性会議 / 半澤監事に聞く!	10
若手後継者の本音 / 関谷亮太さん	12
酪農トピックス / 第20回スポーツ交流会を開催!(仙台)ほか	14
日本酪農見て歩紀 / 北海道鶴居村 釧路丹頂農協幌呂支所 植田牧場	17
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年7月)	20
平成25年度6月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	22
人事異動	26
今月の表紙 / あそぼ	27
今月の子どもギャラリー / 福岡中学校(東北)1年 石澤愛	28

7月号

第42回 全国酪農青年女性酪農発表大会②	2
日本国民を守る「全国酪農民大会」開催!!	5
管理部だより / ウィンドウズXPサポート終了問題	6
酪農トピックス / 牛舎屋根への石灰塗布で牛の暑さ対策(飛騨酪農協より)ほか	8
日本酪農見て歩紀 / 福岡県那珂川町 藤野和有基牧場	11
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年8月)	14
平成25年度7月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	16
酪政連活動報告	20
今月の表紙 / 「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	21
今月の子どもギャラリー / 馬場川小学校(北海道)5年 横山恵也	22

8月号

資源循環型で地域に密着した家族型酪農経営を今一度考える	2
全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 砂金甚太郎 「理解醸成活動」秋葉原にて大々的にPR!!	3
若手後継者の本音 / 菅原啓緒さん	4
嫁・婿が語る酪農の魅力 / 小笠原幸子さん	6
ご当地牛乳・乳製品 特集(北海道)	8
監査室だより / 内部管理態勢の強化と不正防止の観点について	9
酪農トピックス / 北福岡工場 第27回ミルク祭り笑顔満開!(北福岡)ほか	11
日本酪農見て歩紀 / 鳥根県出雲市 伊藤篤男牧場	17
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年9月)	20
平成25年度8月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	22
酪農満足度アンケート集計結果報告	26
人事異動	27
今月の表紙 / そんなに僕のこと好き?	27
今月の子どもギャラリー / 男衾小学校(関甲信)5年 杉田生璃	28

9月号

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 富安麻紀子さん	2
10月からの飲用牛乳値上げに対する理解醸成活動報告(前編)	2
平成25年度会員役員研修 米国視察研修報告	7
酪農トピックス / 平成25年度酪農出前講座「うつくしまも〜も〜スクール」開催!! (福島酪農協より)ほか	11
日本酪農見て歩紀 / 岐阜県高山市 武藤牧場	15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年10月)	18
平成25年度9月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	20
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について	24
広告 / Zenraku Summer Gift	26
酪政連活動報告	29
広告 / 全酪連 酪農セミナー・ワークショップ2013開催のご案内	30
今月の表紙 / 「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	31
今月の子どもギャラリー / 大家小学校(関甲信)1年 佐久間紬	32

10月号

若手後継者の本音 / 長見光寿さん	2
10月からの飲用牛乳値上げに対する理解醸成活動報告(後編)	4
ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 報告(前編)	7
平成25年度 全酪連会員担当者研修会	10
酪農トピックス / いも掘りて市民と交流!(大阪)ほか	12
日本酪農見て歩紀 / 栃木県高根沢町 黒内智治牧場	14
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年11月)	18
平成25年度10月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか	20
今月の表紙 / 「熱下がったかなあ、早く元気になってね」応募作品	24
今月の子どもギャラリー / みどりが丘小学校(関甲信)1年 井上愛香	26



みどりが丘小学校(関甲信)1年 井上 愛香

今月の



## 入賞作品介绍

**今**月の入選作品は、みどりが丘小学校（関甲信）1年の井上 愛香さんの作品です。大きな口を開けて牛乳を飲む子供の姿が印象的な作品です。後方では牧場での牛さんとの触れ合いが描かれ、元気を感じさせる楽しい絵に仕上がっています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議